

【授業科目】血液学

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
鈴木 真紀子	1年次前期	必修	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>血液はさまざまな成分から構成されているが、大きく分けると血球成分（細胞成分）と血漿成分に分かれる。血球成分としては赤血球、白血球、血小板がある。これら血液細胞の腫瘍化、血球の数的・質的異常により、さまざまな病気が発症する。これらの検査・診断を行なうためには血液の基本的事項として、血球の働きや血球が造られる過程、血球のかたち、生体内での調節機構を知ることが必要である。また病気が発症する原因についても理解しなければならない。臨床検査技師の実施する血液検査は、血液疾患の診断のみならず、患者の病態把握にも不可欠であり、術前検査としても必須の検査である。血液とは何か、基礎となる赤血球、白血球、血小板という血液細胞の数や形態、及び機能の解説に重点を置く。また、血液細胞や凝固因子が生体の維持にどのように関わっているかを理解する。更に最近では病態の診断に欠かせない染色体・遺伝子検査、細胞表面マーカーの検査も汎用しており、理解するために基礎的な知識も併せて講義する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/各講義前の小テストは次回講義に返却及び、解説する。定期試験について総評コメントを掲示にて公開する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液とは何かを理解する。 2. 血液の細胞成分である赤血球、白血球、血小板の役割を理解する。 3. 免疫の概念と免疫系について理解する。 4. 1次止血について理解する。 							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>病気がみえる vol.5 及び、vol.6 を参考書として推薦する。血液疾患のメカニズムについて分かりやすく記載しているため、基礎を理解しながら興味深い病気のことを詳しく学ぶことができる。第1～8回事前学習：指定の教科書を復習しておく（2時間）。</p> <p>第1～8回事後学習：授業内容を復習する。要点をまとめておく（2時間）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる（2時間）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 血液の成分 血清と血漿の違い、血球の産生</p> <p>第2回 赤血球の形態 赤血球の成熟過程、赤血球の生化学 ヘモグロビン代謝</p> <p>第3回 鉄代謝、ビタミン B12 及び、葉酸の代謝</p> <p>第4回 白血球の成熟過程、白血球の形態と機能、形態異常</p> <p>第5回 細胞表面抗原</p> <p>第6回 血小板の産生と崩壊</p> <p>第7回 止血機構</p> <p>第8回 血小板の機能</p>						全て 鈴木	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 30% 前回授業の復習小テスト 70% 学期末試験 授業態度も加味する。</p>							
教科書	最新臨床検査学講座 血液検査学 奈良信雄著 (医歯薬出版株式会社)			参考書等		病気がみえる vol.5、vol.6 血液、免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア)		
学生へのメッセージ	<p>血液は体中の細胞へ栄養分と酸素を運んでいるため、その血液を検査することで様々な知見が得られる非常に興味深いものである。探究心を持って楽しく学ぼう。</p>							